

本多平直さんとの対話集会(2018年1月18日 倶知安町文化福祉センター)

原発に関する質疑応答

◎本多さんの原発に対する考え方

- ・ 私自身はできるだけ早い時期に原発ゼロということを考えていたし、泊原発は再稼働するべきではないということはずっと申し上げてきたが、トータルで脱原発に対する姿勢でいうと、民進党時代は中途半端な姿勢に見えていたと思う。
- ・ 民主党政権時代「2030年代原発ゼロ」を決めた際、党内や政府内での相当な抵抗の中で、枝野さんも色々な意見を聞きながら、その枝野さんのもとで下働きをしながら、「2030年代」では遅すぎるが何でもいからとにかく「原発ゼロ」を決めようということで、党内や政権内でも「ゼロ」という言葉を書かせないとする勢力と闘って、官僚とも闘って「ゼロ」という言葉を書いた。原発ゼロに反対する勢力と闘ってきたということは解っていただきたい。
- ・ 立憲民主党になって、しっかりと脱原発を言える立場になった。原発ゼロ基本法案をできるだけ早く国会に出す。「再稼働は原則認めない」という、「原則」と書く「再稼働を認めるのか」と思われるが、今まさに電気が足りない、例えば「今すぐ原発を動かさなければ病院の人工呼吸器も止まる」というような時に一時的に動かすのを禁止しないというだけの話であって、基本的には再稼働は許さない、という法案を用意している。他の野党や小泉さん、細川さんとも一緒に頑張っていきたい。
- ・ 新しく立憲民主党に入る人には、この原発ゼロ法案の姿勢をきちんと認めた上で入ってもらおう。

Q:「やむを得ない場合は動かす」となると、その時に備えていつでも原発を動かせるように維持していくことになるのではないか？

本多: 私たちの法律が通ったら、再稼働する状況はほとんど有り得ないと思う。「再稼働は一切認めない」でも良いのだが、ただ「そういう時になったらどうするんだ?」と言ってくる人に対して法律に書いておかなければいけない。どんどん廃炉の作業も進めていくから動かせるものはどんどん減っていくわけで、たまたま緊急時に動かせるものが残っていたら、動かせる可能性をゼロにはしない、という程度のもの。ただし、市民運動の方からは批判が出るころだと思うので、タウンミーティングなど機会がある毎にどんどん意見を出して欲しい。

Q: 東日本大震災以降、電力の消費量はどんどん落ちてきているし、今後も落ちていくと思う。そうしていけば原発がなくても余力は出る。「緊急時に原発を動かす」というのは、政府が推進している「ベストミックス」に結びついていくのではないか？

本多: 今回なぜ原発ゼロ法案を出しているのかというと、菅さんや枝野さんが反省しているから。政権担当時に原発を止めたかったのだが、電力会社や経産相の官僚から「もし万が一の時はどうするんだ」と脅されてできなかった。でも、3年経って(2014年)原発ゼロでも電力不足になることは一度もなかったし、余力もあるのを見て「原発ゼロはできる」と分かった。だから、政権担当時に再稼働を許したことで皆さんから疑われるのは仕方ないが、「原発はゼロにできる」という確信を持ってこの法案を作った。以前の曖昧な電力供給論の上での話からは脱しているのだから、ベストミックスとは全く方向性が違う。

Q: ベストミックス論はエネルギーセキュリティの観点から原発の必要性を言っている。それと「緊急時に必要なら原発を使おう」というのは思想が一緒ではないのか？

本多: ベストミックス論というのは原発を残すということ。僕らは残さずにどんどん廃炉にしていくので、ベストミックス論とは正反対。現実には「緊急時に原発が必要」などという事態は起こらないと思うが、法律としては起こらないであろうことを書いておく必要がある。どんどん廃炉にしていく中でどこかの原発が1つ残っていて、全ての火力や水力を動かしても足りなかったら、という話。皆さんと同じ「原発ゼロ」という方向性の中で、法律の書き方だけが違うと思って欲しい。そういう法律の書き方の意見・批判として「再稼働は一切認めべきではない」というご意見はしっかり受け止めて党に持ち帰るが、「ベストミックス論と一緒に」と言われたら、そこはいきり立って反論します(会場笑い)。